

# 第20回 留学生里親・里子だより

●「留学生さとおやの会事務局」

〒540-8508 大阪市中央区森ノ宮中央1-6-20 (株) サクラクレパス内

TEL:(06)6910-8800 FAX:(06)6910-8837

2014年3月発行

HPアドレス:<http://www.craypas.com/satooya/index.html>

## 交流遠足 (淡路島)

まだ夏の暑さが残る9月28日(土)に68名参加のもと、淡路島に出掛けました。今年から道路交通法の改正で補助席が全て使えなくなったという旅行社からの連絡で、急遽バス2台を仕立てての出発です。

まずは北淡震災記念公園を訪問。平成7年に起こった阪神淡路大震災により現れた野島断層をわかりやすく解説し、将来起こりうる大地震についても考えさせられる施設です。まず野島断層を見学、地形の変化の様子を目の当たりにしました。また、活断層の真横でもほとんど壊れなかった家をメモリアルハウスとして公開されていて、家の塀や花壇の煉瓦がずれた様子、地震直後の台所も再現していました。一番人気は震度7を40秒間体験できる震災体験館、地震の恐ろしさを体感しました。

次に南淡路ロイヤルホテルに行き、待望の昼食。ランチバイキングでの食べ放題です。お皿いっぱい、何度も何度も並んでたくさんのお料理にチャレンジ。後のアンケートでも好評をいただきました。

満腹になった後は鳴門海峡が一望できる「駅のみちうずし

お」へ。ここでは全員揃っての記念撮影をしました。大勢なので全員を入れるのに苦労しましたが、みなさんのご協力のもと、ナイスショットを撮ることができました。残念ながらこの時期、時間的にうずしおを見ることはできませんでしたが、晴天の中の大鳴門橋をバックに夫々写真撮影を楽しみました。

一路、なかなか見学する事が出来ない「CEF南ウインドファーム」風力発電の施設を見学させていただきました。この道で大丈夫?と不安になるような道を進み、バスを降りてからは山道をクネクネひたすら歩き、予期せぬ山登り。風車の下で係員の方の説明を詳しく聞くことができました。

帰り道には風光明媚な瀬戸内海を望む「慶野松原」という海岸で途中下車。いつもアンケートで「海を見た事がないので海に行きたい」という希望をいただきます。夕日には少し早かったですが、渚で波とたわむれて楽しみました。

無事に全ての予定を終了して、楽しい思い出を胸に一路大阪へ。長い一日でしたが、楽しくあっという間に終了した感じでした。また、来年も楽しい遠足を計画したいと思っています。たくさんのご参加をお待ちしております。



## 新年交流会

今年も新年交流会が1月11日（土）に大阪日本語教育センターで盛大に開催されました。多くの留学生がボランティアの方々のご協力により着物を着させていただき、新年会にふさわしい華やかな雰囲気となりました。

アトラクションはまず日本殺陣道協会の皆さんによる殺陣の演技披露で始まり、それから学生数名が効果音入りで殺陣の実演体験をさせてもらい大喜びでした。続いて田仲さんが新春にふさわしい日本舞踊「松の名所」を披露してくださいました。

その後、家族単位で歌や花笠踊り、マジックなどが次から次へと披露されて会場も大いに盛り上がりました。さらにイランの学生が民族楽器の打弦楽器サントゥールを演奏、フィリピンの学生が水の入ったグラスを額や手の甲の上にのせながら踊るお国の踊りを披露、どちらも心のこもった熱演に大きな拍手が送られていました。

集合写真を撮った後、今年度対面した学生に「将来の夢」についてインタビューしました。「大きな夢」から「いいお父さんになりたい」まで、それぞれの夢や希望を語る留学生一人一人の将来の幸せを願いながら聞いていました。

最後は恒例のビンゴゲームで盛り上がり、3時間余りの新年交流会もあつという間に閉会となりました。

今年も多く皆さんにご参加いただき、たいへん楽しい新年交流会となりました。ご協力、ならびにお手伝いいただきました皆様に心よりお礼申し上げます。どうもありがとうございました。



西澤 信夫  
(司会：幹事)



## 里親

留学生さんとおやの会へは数年前からお誘い頂いていたのですが、ずっと私の中に「留学生には、きちんとした家族、お父さん、お母さん、子供さんがいる家族の方がいい」という思いがあり、なかなか参加には踏み切れずにいました。そんな時事務局の方が「今時いろんな留学生がいるし、日本の家族の形もいろいろあっていいんじゃない?」と言って下さり、この度初めてホストファミリーをお引き受けすることにしました。

そして昨年4月、韓国からの留学生、ジョ ユンソちゃんと初めて対面。ひとり教室に座っていたユンは淡い光に包まれているようにとても可愛らしく、これから1年間彼女と一緒に過ごせるのかと思うと、嬉しくて胸がいっぱいになりました。

ユンはとても賢く、「日本語は、勉強としてじゃなく高校生の時になんとなくラジオを聴いて覚えた」そうです。「せっかく日本にいるんですし」と、日本の文化や食べ物にも積極的にトライし、学校では演劇サークルで活躍したり、流暢な日本語と明るく大らかな性格でたくさんの人と出会い、日本での生活にすぐに溶け込んでいました。

ホストファミリーになってからの日々は、自分自身の居場所は変わっていないのに、私にもとても新鮮でした。あまりにも身近で素通りしていた大阪の名所を巡ったり、忙しさに流されていい加減にしていた日本らしい行事を試してみたり。一緒に着物を着付けてもらって、京都でゆっくりと紅葉狩りまで楽しみました。ある時は大事な娘として、ある時は可愛い妹として、そしてまたある時は仲良しの友達として、ユンは私にかけがえのない想いを味あわせてくれました。

私も高校時代、アメリカでホームステイを経験しています。素晴らしい家族に恵まれ、今でもクリスマスは毎年一緒に過ごします。二十年以上経った今でも、アメリカのホストファミリーは、私の大切な宝物であり心の支えです。留学生さんとおやの会の方々も、縁あってホストファミリーとなった留学生達と、どうぞ末永く良い繋がりがありますよう心から願っております。



橋本 紀美  
(西宮市)



## 里子

ホストファミリーの初めての対面の日には「どんな家族が来るのかな」、「これから上手くやっていけるかな」と色々不安で緊張していました。そんな時にひろみさんと出会い、優しい声と笑顔を見て「ホストファミリーを申請してよかった」と思うようになりました。

食事やお喋りのような普通の日常らしいことや、七夕のお祭りに参加したり、着物を着て京都を回るなど、少し特別な日常をひろみさんと一緒に過ごしながらか、どんどん本当の家族になっていく気持ちでした。

一人で他国に来て、友達も何もなかった最初のころから、ひろみさんがサポートしてくださって、ずっと元気ももらって

いました。一人ではチャレンジできなかった経験をしたり、一人では感じられなかったはずの「一緒にいることで感じられる嬉しさ」ということをいっぱいもらいました。

一度できた絆はこれからもずっと繋がっていると思います。いや、そうさせたいです。今回の留学で築いた大切な絆をこれからも守っていきたくです。こんな素敵な出会いを作ってくれた留学生さんとおやの会には本当に感謝しています。



ジョ ユンソ  
(韓国)

## 里子

### 出会で人生が変わる

そろそろ一年間の交換留学生生活を終え、帰国することになります。この一年間、楽しいこと、辛いこと、悲しいこと、幸せなことが色々ありました。いちばん印象深いことは、「留学生さとおやの会」との出会いです。

私は「留学生さとおやの会」を通して、北野さんの家族と出会い、事務局主催の様々な交流会に参加することができました。里親との遠足・日本文化体験・新年交流会などを通じて、心がとても暖かくなりました。いつも優しい言葉で応援してくださって、自信を手に入れることができました。北野さんのご招待を頂いて、ご家族と一緒に過ごした時間は、帰国してからも忘れられない思い出になると思います。とくに、奥さまの料理を作る姿を見て、自分の家族のことが懐かしくなりました。長い間、両親と離れて生活する自分にとっては、こ

れ以上のない喜びでした。その一瞬の間、自分は一人ではなく、家族のような友人がそばにいることが実感しました。最も、炬燵に囲む一家団欒の雰囲気と、一緒に食事をする時にしか味わえないちりとり鍋の美味しさに感激しました。

「留学生さとおやの会」の方々のお蔭で、里子たちは異郷にいても、自信を持って頑張ることができました。私も帰国してから、外国人の為にいろいろなボランティア活動をしたいと思います。

おわりに、この一年間にいろいろお世話になった里親会の方々へ感謝するとともに、大阪で学んで、感じて、想ったことを生かして、次のステップとして役立てたいと思います。



文高梅  
(中国)



## ワン・ワールド・フェスティバル

2014.02.01.~02.

今年も2014年2月1日(土)・2日(日)の2日間、大阪国際交流センターで開催のワン・ワールド・フェスティバル「NGO/NPO活動紹介ブース」に出展してきました。天候と気温にも恵まれ、多くの方にご参加いただき、活気と笑顔にあふれたフェスティバルとなりました。2日間で延べ約17,500人の来場者、182団体の参加があったそうです。

我々は2階のブースで皆さんから寄贈いただいた品々を販売しながら、来場者の方々に当会のPRをしました。たくさんの方が足を止め、話を聞いてくださいました。興味があってもなかなか参画できないと、二の足を踏んでおられる方が多くいらっしゃるようです。

当日お手伝いをいただいた皆さま、商品を寄贈いただいた皆さま、いつもながらありがとうございました。



### 編集 後記

留学生里親・里子だよりも今号で20回目の発刊を迎えることができました。いつも無理な原稿依頼をお聞き届けいただき、ありがとうございます。里親さんと留学生の楽しい交流を垣間見ることができるといっていいと思います。こんなことがあった、これを載せて欲しい、いろいろなご希望にも添いたいと思っていますので、是非お気軽にご連絡をいただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

留学生を受け入れていただく皆さまを随時募集しています。皆様からのご紹介があればどなたでも結構です。最近では若い独身の方にも手を上げていただいています。ぜひお気軽に留学生との交流を持っていただきたいと思います。また、財政支援の上でも法人会員の皆様もご紹介いただければ幸いです。あわせてよろしくお願いいたします。

(事務局)